

## (9) 標本船調査からみた太平洋のアカイカ資源について

赤羽光秋・\*鈴木史紀(青森水試)

本課題については昭和55年3月、青森県水産試験場発刊、イカ釣漁場開発調査資料V、1-32頁に全文掲載されておりますので省略。

### 質 疑

**村上(釧路水試)** 54年大型船主漁場の推移の図は、アカイカ群の動きとして理解してよいでしょうか。もし、これを魚群の動きとして理解しますと、魚群は反時計廻りに動いているわけです。ところが、53年の青森水試の資料では時計廻りの推定図になっていたと思われれます。その辺の違いについてお聞かせ下さい。

**鈴木** 図中の矢印は季節による漁船の動きの方向を示したものであり、魚群の動きとは必ずしも一致していません。ただ、総体的な動きを標識放流の結果からみますと、北上期には北東方向に、南下期には南西方向に動いています。

**村田(北水研)** ①月別の漁獲量は釣りだけのものか、流網によるものも含まれているのか。②標本船のリストが出ていますが、用いられた資料はこの標本船(アカイカ4隻)のものに限られるのか。③回遊コースがA、B、Cと3つあるが、54年の場合、それぞれのコースの群についての体長組成、性比、成熟状態などに関しての検討をされておられたら教えて下さい。

**鈴木** ①すべて釣りです。②標本船の結果については4隻の標本船の他に、大畑無線局による18隻の大型船の資料の提供を受けており、その資料も含めています。③回遊コース別の群特性に関する分析は行っていません。今後検討したいと思っております。